

# 山行報告

## 桧枝岐川流域の沢

1989年福島登高会夏合宿は、桧枝岐川支流実川流域の遊行という形で実施された。遊行した沢は、29日に矢櫃沢(L<sub>1</sub>), 30日に七入沢(L<sub>2</sub>), 八入沢(L<sub>3</sub>), 上大杉沢(仮称, L<sub>4</sub>), 御池沢(仮称, L<sub>5</sub>)である。またこれとは別に、10月にモーカケ沢の遊行を実施した。これらをまとめて紹介する。

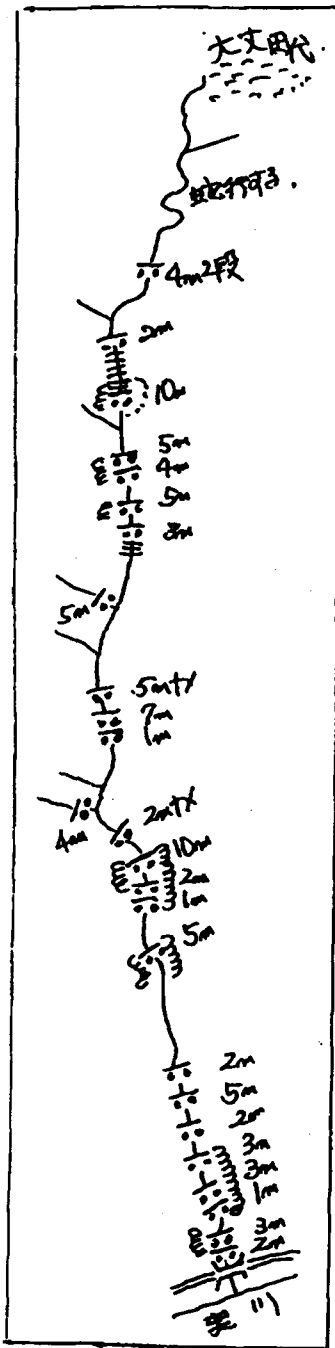
### 矢櫃沢 1989年7月29日 L<sub>1</sub>

実川林道を45分間歩いて矢櫃沢出合。昨年矢櫃沢出合の先まで林道が開設されたが、とたんに伐採が始まったらしい。暗い樹林帯の中を流れる沢だった矢櫃沢が、明るい伐採地の中を流れる沢に変身している。また、沢には流木が散乱し、歩きにくくてしょうがない。ともかくも身支度をして遊行にかかる。

出だしから小滝が続く。最高5mクラスまでであるが、8個がつかっている。いずれも花崗岩の滝であり、スタンスも多い。ただ岩にコケがついているところがあり、注意が必要だ。次々に直登してゆく。

4つ目の小滝を登っているとき、材木搬出用のケーブルが動きだした。あわてて左岸に登り避難。伐採はまだ始まったばかりのようで、沢ぞいに張られたケーブルの真下あたりの材木を搬出している段階である。

小滝群が終了し、しばらく平凡となるが、やがて小さなゴルジュとなり、5mの滝がかかる。右岸を直登。そのあとしばらくしてまた兩岸が切り立ち、10mの滝。この沢では最大の滝である。右岸の岩場と水流との間に岩稜状に岩が高まりを見せている。その岩の高まりの左側は簡単に登れる。右側はシャワーとなり、



ちょっと緊張した登りであった。ハーケンが1枚、シュリングをつけたまま残置されていた。

また平凡となる。滝と滝の間に平凡な河原歩きがはさまるのは、この沢の特徴のようである。やがて3つの小滝が続く。取り付けには木の梯子のかけられていたが、それを使わずとも左岸を楽に直登できる。

またしばらく平凡な河原歩きがはさまる。やがて伐採作業の行われている最奥地点に達する。ここに4つの小滝が連続する。2つ目の5mは左岸を直登。もう花崗岩帯は終わり、モロい岩となっている。ブロック状にポロッとぬけてくる岩があるので注意。つぎの4mは、右岸を直登する。水流に磨かれた部分とモロくなった岩場との境目あたりを登る。その上の5mナメ滝は、スタンスが豊富であった。

小休止後少し進むと、赤い岩をした10m滝となる。ここは左岸を捲く。この滝の上部は黄褐色の岩肌をしたナメとなっている。ここまできると沢の傾斜が緩くなり、水が急に冷たく感じられてきた。最後の4m 2段滝は、下段にスタンスがなく、流木を利用して越える。

沢水はいよいよ冷たく感じられるようになり、沢も蛇行して流れるようになった。そして沢ぞいにミズバショウの群落が随所に見られるようになる。10:55大丈温原に出て遡行終了とする。

大丈温原は、樹林帯の中にそこだけぼっかりと別空間を作っていた。トキソウの色が鮮やかで目をひき、ニッコウキスゲやワタスゲが群落を作っていた。実川からの登山道はササに覆われて、魔道となっ

ていたが、大学のワンゲル部がリーダー訓練と称して時々訪れているようである。2年前の日付の入った赤布やそれよりも更に古い布切れが所々の木々につけられていた。事実上やぶごぎの連続で実川へ下る。

(記)

【タイム】 七入(6:55)→矢櫃沢出合(7:40, 7:55)→大丈田代(10:55, 11:20)→実川(12:20)→林道終点(13:40)→七入(14:35)

## モーカケ沢 1989年10月8日

前日夕方に福島を発ち、七入にて車中泊。10月初旬ともなると、かなり気温が低くなってきていて、沢登りをやるには天気が心配であるが、幸いにも好天にめぐまれた。

七入からモーカケ沢の案内板に従って、沢の左岸を進むと、流された橋に出る。案内板は、左岸の尾根の方に続いていたので、そのまま進むと、「滝」ならぬ「滝見場」に出てしまった。「橋が流されたので、迂回して滝の下に行くのだろう」と勝手に思い込んでしまったのが、失敗のもとである。滝は遠くに見える。

「滝見場」から踏跡がわずかに残る尾根を少し登ってから、モーカケ滝の上に出る。沢床は大石が階段状に続き、大きな斜瀑のように見える。しかし厳密には滝でないので、2mの滝1つを遊行図にいれる。滝状になった沢を登ってゆくと、本物の滝の出現である。8mはあるか。夏ならシャワーで登れそうだが、この季節では思っただけでも身震いしてくる。左岸を捲いて沢に戻ることにする。

左岸岸壁は車道である。車のエンジン音が聞こえてくる。沢は平坦となり、倒木にナラタケ、ムキタケ、ブナバタケなどのキノコが顔を出している。時間も早いし、それらを探りながらのんびりと遊る。沢はナメに砂や石がかぶった

